

令和元年度 介護等体験事業に関するアンケート【結果】

種別	No.	1,学生の姿勢や態度、事前学習状況【良かった点】
老人福祉	1	全体的にコミュニケーション能力が高い学生が多かった印象がある。
	2	初めて高齢者施設に入り、とても緊張しているという学生も数名いましたが、それぞれ皆さん施設の様子を職員に聞き取りながら頑張っていました。入所者の方とも常に笑顔で対応されていました。
	3	利用者や職員に対して笑顔できちんと挨拶ができていました。毎日、時間内に日誌を仕上げ職員からコメントをもらって確認することができました。介護等体験終了後に「お礼状」をもらい、これから目指す職業に活かしたいとのコメントも多く書かれていました。
	4	福祉について事前学習がきちんと学べており、スムーズに介護等体験に取り組むことができました。
	5	利用者様の話しに耳を傾けながら積極的に関わりを持つ姿勢が見られ、利用者様から慕われていた。
	6	明るく積極的な学生が多かった。
	7	ある程度の事前学習をして、介護等体験に入ってきているので、オリエンテーションに時間をかける事がないので、良かったと思います。言葉遣いや挨拶等礼儀も良かったです。
	8	・事前連絡をとり、実習前の確認が全員できていた。 ・利用者との関わりを積極的に行い、目標を立てて取り組んでいる。
	9	学生が礼儀正しく、素直に高齢者、障がい者の方々に向き合って積極的にコミュニケーションをとっていた。利用者さんも元気ももらえたと言っていました。
	10	利用者さんにどのように接したら良いのか、自分なりに考えているようでした。
	11	挨拶や声掛け等を行い、積極的に関わろうとする姿勢が見られました。
	12	例年通り体験に取り組む姿勢が良い学生が多く受入しやすかったです。
	13	利用者に対して積極的にコミュニケーションを取られていた。
	14	利用者様との会話をする中で相手と目線を合わせ傾聴し、ゆっくりとした口調で返答しており、自身から何をしたらいいのか職員に問うなど、積極的な面が見受けられました。
	15	介護等体験に取り組む姿勢は前向きで今回の介護体験を通じて吸収しようと意欲的でした。利用者様への対応でも笑顔を忘れず積極的に声掛けをしていて好感が持てました。
	16	利用者様と積極的にコミュニケーションを取るなど好印象を受けました。
	17	事前に福祉について、勉強されている方もいた。積極的に利用者に関わろうとする努力の姿勢がみられた。
	18	利用者と積極的にコミュニケーションをとり関わりを持つ姿勢がみられました
	19	利用者様への対応、談話等に臨む姿勢、大変良かったです。
	20	挨拶や言葉遣い等、体験に対する態度が良かった。
老人保健	1	どの学生さんもしっかりと取り組めていたと思います。
	2	積極的に利用者さんと交流をもってきている。職員に指示されることなく動いてくれている。
	3	認知症の方に対して、何度も同じことを聞かれても否定せず、その都度同じ回答をされていたのが好意的でした。利用者様と会話をするときも目線を利用者様に合わせていたのが良かったです。
障がい児童	1	将来教師になるという目的を持ち、望む姿勢が伺えた。一日の振り返りで、しっかり意見や感想を言うことが出来ていたので良かったと思う。
	2	元気な学生が参加することで利用者に活気が生まれた。活動に積極的に参加して、利用者と一緒に楽しんでいた。
	3	素直に指示に従い、謙虚に取り組んでいた。学生からお礼のお手紙を頂きました。

種別	No.	1,学生の姿勢や態度、事前学習状況【良かった点】
障がい児童	4	一日一日助言をもらった改善点などしっかり振り返ることが出来ている学生や、障がいに対し理解を深め、関わりの質を高めていこうとする姿勢がみられた。
	5	不慣れな環境の中、対応の難しい利用者にも向き合い、よく頑張ったと思います。
	6	障がいのある児童に対して、興味を持ち、色々質問をしてくれる生徒がおて受け入れる側として嬉しく思った。
	7	子ども達が喜びました、実習生の方々もよく子ども達と関わってくれた。発達障害について少しでも伝えられることができた。
	8	事前電話
	9	自ら積極的に子ども達に話しかけたり、一緒に活動に参加してくれる学生が数名いて、免許取得のための目的等理解している様子だった。
	10	勤務態度や子ども達への接し方がとても良かったです。介護等体験の記録も丁寧にされており良かったです。
障がい者	1	利用者様とのあいさつやコミュニケーションもうまくできており、実習に向かう姿勢も良かった。
	2	実習指導者の指導に対しても積極的に行い、大変良かったとのこと。 利用者に接する際に笑顔も見られ大変良かった。
	3	「介護体験」ということで緊張していましたが、利用者に対して笑顔で元気よく挨拶しており、先入観なく実習に取り組んでいる印象を受けた。利用者様と積極的にコミュニケーションを図ったり、利用者様から話しかけられる様子が多くみられた。自ら次は何をしたらいいか職員に問いかける様子も見られた。5日間という短い期間ではあったが療育音楽、外出支援にも参加し、大変貴重な体験や経験ができ、充実した実習であったと強く感じました。今回の実習で学んだことや体験したことを今後にも活かせるようにしていただきたい。
	4	学生が体験に出たことで施設全体の雰囲気も変わり利用者もやる気が出る
	5	問題なく体験できていたと思います。
	6	言葉遣いやご利用者に対する態度が良い学生が多かった。中には気になることの質問もあり、こちらも返答することで現状の再確認をすることができた。また、自ら進んで職員に声をかける方もいて好印象だった。
	7	初めての福祉現場での体験でしたが、皆さん積極的に利用者さんとコミュニケーションをとっていました
	8	利用者への声掛けを積極的に行いコミュニケーションをとることができ、利用者の方も喜んでいる姿がみられ良かった。 創作活動で行う月別カレンダー貼り絵の下書きをお願いすると、進んで絵を描いても頂きました。
	9	日誌等上手くまとめられている
	10	全員礼儀正しく、前向きに取り組んでいました。
	11	皆さん前向きに学ぶ姿勢があり、振り返り際には質問や感想をメモにして残しており、有意義に行えて良かったです。
	12	短い日程のため、特定の利用者さんとの関わり（主に、作品づくりなど）を主として体験を行ってもらい、相手の利用者さんとのコミュニケーションもスムーズとなり、お互い笑顔で楽しそうに活動されていた。
	13	実習に参加した学生の態度が良く感心しました。利用者とのコミュニケーションもうまくとれていた。障害に対する事前学習ができているように感じました。
	14	利用者さんや職員と会話するときに笑顔で接していたことはよかった
	15	短期間(5日)で、対象の利用者と理解するのは困難だと思いますが、楽しく充実した体験の報告が多く教育の現場にいかしてほしい
	16	出勤状況や実習態度も良好で、毎日の記録も利用者や日課の状況等ていねいに記入されていました。 利用者に接する態度も良好でした。

種別	No.	1,学生の姿勢や態度、事前学習状況【良かった点】
障 が い 者	17	(1人受け入れ) 事前連絡の段階から体験終了にいたるまで悪い印象を受けなかった。毎日、終了前には面談を持ち、その日の確認事項を行っていたが、体験する中で生じた疑問点にしっかり質問を行って確認をとることが出来た。
	18	利用者と積極的にかかわろうとする姿勢がみられた。 利用者のペースに合わせて共に作業に取り組んでくれた。
	19	気になった点：疑問点など積極的に質問してくれました。学びに来ていると感じ好印象を受けました。
	20	職員の指示も素直に聞き、利用者とも積極的にコミュニケーションを図っていました。利用者ひとりひとりの視察や気づき等も日誌で良くまとめていました。
	21	「教員の卵」が障がい者の生活の一端を垣間見ることは、児童生徒に対し社会の状況を伝えるための良い知見になったと思う。 終了時のミーティングでも多くの気づきと疑問が語られ真摯に体験に望んだ様子がうかがえた。
	22	ハキハキとしていて前向きな姿勢がみられ。障害のある方とも積極的に話をしようとしていたので、とてもよかった。
	23	皆さん真面目に実習に取組、障害を持つ方達のことを理解しようとする姿勢が見えました。
	24	欠席、遅刻等なく、利用者の方とも穏やかに接していました。
	25	実習の初日は誰でも戸惑い、緊張してしましますが、今回の学生たちは一応にして接し方が明るく、姿勢、視点などが良かったです。
	26	疑問の感じたことを質問にできたこと。

種別	No.	1,学生の姿勢や態度、事前学習状況【課題点】
老人福祉	1	一部指示待ちの学生がいた。
	2	少数だが実習の目的を理解しておらず、消極的な学生もいて指導に困った。学校でも実習の姿勢や態度についてもっと指導してほしい。学生の中には「教員を目指してないので」とやる気のない発言があった。
	3	コミュニケーションの回り方については、施設職員にも課題はありますが、何かきっかけ作りのひとつとして、施設まわりの特色や風土を調べてくるといいかもしれません。
	4	身体介助が主となる特別養護老人ホームにおいて、実際に体験されることが限られてしまう。高齢者福祉をどのように伝えるか課題と感じています。
	5	事前の電話確認を夜にしてくる生徒がいた。また、土日は担当者が不在であるが電話をしてきていた。(実習前日であったため対応も遅れた)
保老 健人	1	耳が遠い利用者の方もいるので、場面によっては大きな声で話しをしてほしいと思いました。5日間という短い期間ですが、利用者さんの名前をもっと覚えてほしいと思いました。
障がい 児童	1	児童と関わる際、言葉遣いや態度等が友達感覚のように思えた。
	2	介護等体験に来ている、また利用者も年上の方が多くなか、言葉遣いが丁寧ではなかった。解除中に足を組む場面が問題とみられた。(緊張感の欠如)
	3	人見知りや口下手など性格的なことや、メモに熱中してしまい肝心な児童と関わり障がいに対する理解や支援方法を実践することが、実習後半にしかできず、積極性を欠いた学生もいた。
	4	少々厳しいかもしれませんが、もう少し事前学習があっても良いと思いました。児童デイサービスがどのような事業か、どういう方が利用するのかもう少し事前に学ぶとよりスムーズに実習できたと思います。
	5	積極的に取り組んでほしかったが、受け身、指示待ちの生徒もいたので、もっと考えて行動してほしいと思った。ほとんどの学生は積極的だったが、一部このような生徒もいたので、、
	6	身だしなみです。ピアスをしている人達がいた。基本実習時にピアスなどは身につけてはいけないが、ここでは子ども達に怪我をさせてしまうリスクがあることなども理解した上で来てほしい。
	7	身だしなみ、実習にきているという意識不足。
	8	身だしなみや態度等、社会人としての基本的なマナーができていない学生が数名いた。事前学習も意欲的につながると思うので、是非させてほしい。
障がい	1	「介護体験」を行うとき、事前に障害者総合支援法(障害者)と介護保険法(高齢者)があることを認識して体験にのぞむと「介護体験」の意識が高まると思います。
	2	本人の動機づけが弱い学生もいた
	3	一部ではあるが日誌に事前学習の記載がない、積極性に欠けるなど気になる学生がいた。実習の意味を再度確認する必要があるかと感じた。
	4	実習生が何名かいる中で態度やコミュニケーションで差がありました
	5	職員へ支援方法等の質問を積極的に行い、利用者への支援をいろいろ体験して欲しい。
	6	5日間と短い期間だが、積極的に質問などがあってもよいと思う
	7	やはり、最重度の障害を有する方々に対し、日ごろの生活ではほとんど接する機会も少ないためか、緊張や戸惑う様子が見られた。学生の皆さんも忙しいとは思いますが、事前のボランティアなどで、少しでも訪れた経験があればな、と思った。
	9	緊張もあったと思いますが、積極性がもう少しあってもよかったかなと思いました。
	10	「障害」に対する先入観(偏見・不理解)を持っている学生が多いような気がする
	11	利用者を誘導する際の声掛けや生産活動や創作活動等において、やや積極性に欠ける様に感じられました。
	12	福祉事業での体験ということで、教育現場とは違うため『何を』学びに来ているのか、個人差による軸のブレを感じます。
	13	現場だけの体験で福祉に関して話をする時間がありませんでした。
	14	事前学習している人としていない人ではスタートが違いました。
	15	体験現場が分からなかった(事前の確認)。1日遅刻があった。記録時間に寝ていた(2回)

種別	No.	2.学校側の施設・学生への連絡や調整は十分だったか。受け入れに当たり学校への要望
老人福祉	1	事前に連絡があり、受入もスムーズでした。
	2	事前に、大学担当者や学生からの連絡がきちんとできており特に要望はありません。
	3	事前連絡、事前訪問オリエンテーションがしっかりできていました。
	4	連絡や調整は十分なされており、学生の実習に励む姿勢とても良かったです。
	5	当日連絡無しのキャンセルや後日学校から連絡がくることがあった。
	6	連絡はうまくなされており、受入前日に3名の学生が背広姿で施設を訪問した姿は感動しました。要望としては、一度に3名程実習出来たらよいと思う。
	7	連絡等はしっかり行われていました。
	8	オリエンテーション事前連絡、確認事項についてもしっかりしていました。お盆の為、平日休業日もありましたが、日程変更も速やかな対応でした。
	9	実習生からの事前の確認事項等しっかり行われていて、受け入れ側も安心して初日を迎えられました。
	10	学校から担当の職員が来園され調整はしっかりできていました。学校への要望は特にありません。
	11	電話での事前確認については、かける時間帯などを考慮してほしい。
	12	学校側と学生から事前に連絡があり、体験前の心構えができていました。
老人保健	1	学生さんからも事前に連絡があり、調整は十分出来ていたと思います。
	2	若干、受け入れた学生の中で遊び感覚で来ていた学生も中にはいるので、そこのところを学校側で考えてほしい。
	3	高齢者の方とのコミュニケーションの取り方にもう少し取り組んでほしいと思いました。どんな会話を好むのか、天気や方言。いくつかの童謡を歌えると円滑にコミュニケーションが取れるかなと思いました。
障がい児童	1	学生との連絡、調整を行ってもらい、日程変更の連絡もスムーズに行うことが出来とても助かりました。
	2	事前に先生や学生から電話があり、調整できた。大学からお礼状頂きました。
	3	指定していた書類の提出を持ってこないことや、提出時間を守らず業務に支障がでることもあった為、意識付けを行ってほしい。
	4	連絡を取る際に、なかなか電話に出てもらえず、連絡事項伝えるのが遅くなった。体験に行く事業所等の連絡先をアドレス登録するなど、かけ直しができるようにしてほしい。
	5	琉球大学からは、事前に担当の先生があいさつにいらしたり、2週間前に連絡（学生さん）があったりできていた。沖縄大学は1名連絡がなかった。事前に実習先の休みなども伝えてほしい。実習先がどういった事業所なのか。自ら知らべ、学んでからが実習に入りやすいと考えます。
	6	学校側で行ったとされる研修がどういうものが不明。学生に聞いてもまったく答えられないことから落とし込みが浅い、弱い気がした。
	7	学校側から学生への連絡は行っていないと思いますが、学生からの連絡がなかったり、体験を辞退する学生がいた。こちら事前に体験内容を決めていて、当然の辞退、欠席等をされてしまうととても迷惑である。普段からの学校生活で学生の性格等把握されていると思いますので、他学生よりも声掛けを多目にし体験ができるのかの判断をお願いしたいです。
	8	学生側からの連絡や事前訪問があり、調整が出来たことは良かったです。
障がい	1	事前連絡もできており、受け入れもスムーズにできた。
	2	体験中の学生の様子を見に来たり電話等で状況を聞いたりしてとても良かったと思います。
	3	事前に学生さんの希望する体験内容を提示していただければ、より密な体験が出来るのではと思います。
	4	実習のオリエンテーション、実習当日などきちんと実習生側も時間や仕事・実習の流れを理解していました。
	5	介護等体験に限らず、初対面の他者と接する際の『相手を大切に思う気持ちを』が、体験に訪れた学生全員から感じ取られました。また事前の電話連絡なども、学生からしっかりと頂いていたので、大学のスタッフの皆さまの、指導の賜物だなと感じました。
	6	実習生受け入れ予定変更の際にもスムーズに対応してもらえてよかったです。

種別	No.	2,学校側の施設・学生への連絡や調整は十分だったか。受け入れに当たり学校への要望
障 が い	7	事前に担当の先生から連絡があり、実習期間の調整は問題なくできたと思います
	8	事前のオリエンテーションの日程調整等がスムーズに出来ない学生が数名いた。(また、台風で欠席分の調整も)
	9	事前連絡や事業所訪問等特に問題はありませんでした
	10	学生から事前に連絡があり本人とスムーズに調整を行うことができた
	11	事前の連絡もあり、受け入れ側としてスケジュール(プログラム)を組みやすかったです。特に問題はありませんでした。
	12	実習の事前調整や書類提出も迅速に対応していました。
	13	体験するだけでなく学生側からの何らかのプログラム提供があると、より積極的な体験をすることができるのでは...
	14	あまり学校側が関わらず、学生自ら調整していたのは良かったと思う。自らの気づきになることが多いのではないか。
	15	もう少し早めのオリエンテーションなどの日程調整ができればと思います。
	16	年の下半期は受入を控えたい。重度で高齢者の施設なので感染対策として。

種別	No.	3.介護等体験事業全体を通して気づいた点、要望等
老人福祉	1	各大学によって、介護等体験日誌に担当者の確認印だけの大学もあれば、指導者のコメント欄があったり、日誌以外の出席簿があったり、介護等体験の「証明書」の書式が違っていたりするので、せめて沖縄県内の大学だけでも介護等体験日誌の様式を統一などは出来ないでしょうか。事務業務簡素化の為に確認印やサインで済むような統一ができるなら幸いです。
	2	学生の介護等体験に対しての学ぶ意欲が低くなっていると感じます。職員の指導する負担が増えてきますと受入自体が難しくなってきます。
	3	学生は将来、教員を目指しての事で「介護等体験」だと思いますが、すでに教員には「なれない」「ならない」と暗い思いを抱いている者がおります。諸先輩達から、学校現場の厳しさを聞かされているとのこと。どの職種も厳しい状況ですが、まずは、夢に向かって、前に進んで頂きたい。
	4	介護実習の服装として、次回からはトレパンのポロシャツにしてほしい。今回は短パンでした。
	5	学生との意見交換や交流を通して業務の改善や職員のモチベーション向上につながったと思います。
	6	高齢者、認知症の理解を事前に深めてくれれば実際の介護現場を見た時に戸惑いが少ないのではないかと思います。
	7	今後も、介護等体験実習生も受入、福祉の理念の普及に努めてゆきたい。
	8	業務前ミーティングでの紹介、挨拶、業務内容説明、確認後、利用者様が来所してからは職員からの指示の出すことが少なくなる為、気になったこと、指示を仰いでほしいときは積極的に職員に声掛けて頂きたいです。
	9	将来、先生を目指している実習生が実際、先生になるときに生徒から就職の相談があっても介護職を進めないという声を聞きました。5日間の介護等体験を通して将来、生徒の就職相談に対し、介護職も意義ややりがいの持てる職と説明できる先生になってもらえるよう受入施設の取組は重大だと思いました。
	10	学生さんに関しては、みんな真面目で礼儀正しく良かったと思います。
	11	実習日誌については、できれば全校共通のものにおであると、受入側としてはありがたい。
老人保健	1	こちらから、認知や介護の注意点などを説明していますが、逆に学生さんからも質問や気づきを聞かせていただきたいと思います。
	2	介護等体験途中で体調不良のため休んだ学生さんがいたのですが、その後連絡もなく、介護体験手引きを施設で預かったままになっているのでどうしていいか解らず
	3	最初は緊張していた学生さんが段々とおしゃべりが出来るようになってくること。20～30名ほどの人の前でなぜ先生になりたいと思ったのか思いをそれぞれがキチンと言えることに感動しました。
障がい児童	1	当施設を希望されていなかったのが学ぶ姿勢があまり見られなかった。指示、協力をお願いすると心良く、素直に聞いてくれるが、その他は傍観的な場面が多くみられ、あまりやる気が見られなかった。施設側としても受け入れるからには、一つでも多く学んでもらいたい気持ちがあります。学生さんも学ぶ意思をもって体験してほしい。
	2	職員にとって実習生に指導することや意見、相談を受けることで指導力や説明能力の向上に繋がる良い機会でした。次年度も受入したいと思います。
	3	障がい児に対する理解や、児童デイに対する考えを改めて考えさせられたと意見が多く、関わり方も日々成長を感じることができた。
	4	今回一人ずつの体験でしたが、二人同時に行えば本人たちの不安は軽くなったと思います。
	5	学生が来ることによって子ども達にも他者と接する機会がもらえ、職員も気を引き締めて指導にあたるなど、良い風が吹いていつも受け入れてよかったと思います。子ども達が放課後にしか来ないため、夏休みの受入だが、平日にも受け入れできるようなプログラム(1日3H～、10日間等)があるともっと受け入れることが出来ると思いました。

種別	No.	3,介護等体験事業全体を通して気づいた点、要望等
障がい児童	6	基本、実習生であろうが第一印象は大事であり、それが悪ければそれだけで評価されてしまう。見た目で判断はしないが、実習中の行動だったり、子ども達の関わり方、姿勢を見て判断、評価させて頂きました。やはり、積極的な方が多かったと感じました。ですので、身だしなみで評価されるのはもったいないと、そこを気を付けてください。もっと質問もしてほしいです。
	7	全体的に身だしなみ、言葉遣い、日誌の取組、記入の仕方、連絡不足、意識不足などこれで教職を目指していると思うと大学側のイメージも変わってしまうと感じた。新しい意見としてはこちらも気づきになった。否定的な言い方をしてしまう学生がいた。
	8	今回2回目の受入を行っていますが、事前学習の取組よりも、身だしなみ身だしなみや態度からできない実習生が多数いた。何の免許を取得したいかで、気持ちもやる気も違うような印象でした。なぜこのような体験が必要なのか、どんな目的なのかを今一度学生さんへ伝えてほしい。社会人としての常識は薄いように感じました。
障がい	1	実習生が現場に入ることにより職員も気を引き締められるのでいいことだと思います。話だけ聞いている介護とは、とても大変な仕事だと思われませんが、実際体験することで、職員がどのように利用者様と接し、日々の生活を楽しませることに努力しているかなども見られ、良い経験になると思われます。
	2	事前の説明会で話したことや事業所のパンフレット等に目を通して少しでも頭の中に入れて現場に入って欲しい(事前学習)
	3	実習生の中には義務的に実習をこなしているような実習生もいるなと感じました。
	4	特にありません。 実習の事前調整や書類提出も迅速に対応しておりとても良かったです
	5	学生の日程等もあり、かなり厳しいかと思いますが、一人でこられる場合と他の大学でも、2人以上で体験に来る場合とでは、後者の方が、お互いに励ましあいながら体験されているのを見てきた。大人数過ぎても問題だが、複数人数(2~3人程度)が、最も理想的だと感じた。
	6	就労支援事業所ということで生産活動の内容で班を作り活動しているので、全部の班へかかわることができるようにしています。受け入れの際には障害特性や利用者の生産活動に関すること、実習中に目的意識をもって行動が出来るように話をし、終了日には振り返りを行い各自発表してもらっています。
	7	教員免許取得の為に日々頑張っている学生が実習でくるとは、職員にとっても刺激になるので今後もうけいれていきたいです
	8	特になし。体験を楽しく行っていた。
	9	福祉に関することや施設に関する事業についてまた、障害等のことについて事前に学習することも必要かと思えます。
	10	学生によって介護等体験に臨む姿勢が異なり、教諭免許の取得に対してのズレを感じた。事前打ち合わせにガムを噛んでいた実習中に居眠りがみられた。
	11	複数の際は、グループワーク、単独の際は質疑応答に重きを置いて受け入れました。「介護等体験事業」として、どちらを重要視しているのか、もう少し明確だとありがたく感じます。
	12	障がい者を理解するうえで、とても意義のある事業だと思います。今後も、快く受け入れをしたいと考えています。
	13	よい制度だと思います。介護体験にとどまらず教員になってからも積極的に施設を社会資源として活用していただければと思います。
	14	単独で体験するのもいいが、複数人でお互いの気づきをシェアできたらもっといいのではないかと思います。
	15	障がいも持つ方の事や生活について先生になる方が現場を体験してくれるのは子ども達への障がい者への理解につながると思います。
	16	体験や実習を通して、様々な方接する機会が増え、利用者の方も喜んでいきます。
	17	事前学習として教員としての社会福祉、地域福祉、発達障害(学校現場の現状)など、ざっくり学んでいると思いますが、続けていくことだと思いました。

種別	No.	4.施設で行う体験プログラムで工夫している点
老人福祉	1	オリエンテーションでは、簡単であるが「認知症とは？」とのタイトルで30分程の勉強会を行い、施設での利用者とのコミュニケーションの取り方を説明しました。
	2	・体験4日目を目安に転生園通所介護事業所（デイサービス）での介護等体験を取り入れて地域性や風土を確認できる機会を設けています。 ・体験実習生が利用者の前で何かパフォーマンス（自己紹介・余興・出し物）の機会を設けています（金曜日の午後）→人前に立つ機会を作る。
	3	特別養護老人ホームだけでなく、法人内で事業所・通所・グリーンホーム・小規模多機能への実習を取り入れ、様々なサービスを体験してもらう。
	4	朝のミーティングでは職員の心得を全員で唱和し始めていき、仕事内容としては、朝の送迎をして朝のレクでは、一分間スピーチとして、自己紹介等を行いました。あと週一回に行っているシーツ交換も取り入れて実施させました。
	5	事業所だけでなく、併設の部署（デイサービス等）の体験も行ってもらいました。
	6	お年寄りとのコミュニケーションを沢山取れるようにしています。
	7	介護技術ではなく、利用者と接する機会を多くして、コミュニケーションを重視したプログラムを設けています。
	8	事前にはしっかりとオリエンテーションを実施し、有意義な実習が行えるように工夫している。
	9	利用者様と共にできる手工芸や作業等を行い、入浴後のドライヤーかけでも利用者様とコミュニケーションが図れるようにする。施設での行事と重ならない日程で調整する。
	10	オリエンテーションにて「介護が必要になる」～「実際にサービスを受ける」までの流れを自法人の各部署を回りながら説明することで介護サービスの流れを実感してもらう。高齢者介護のみならず障がい者支援センター体験を取り入れている。
	11	利用者との交流の時間以外でも必要に応じて、利用者とのコミュニケーションを取れる時間をも設けています。
	12	施設の理念や、事業内容について詳しくオリエンテーションを行っている。
保老健人	1	ホワイトボードに大きな文字カードを使用して、学習に来てくれた子の名前を貼ります。認知症の方は名前を間違えることに不安を感じますが、ボードを見れば名前が貼ってあるので安心してコミュニケーションを取ってもらえます。
障がい児童	1	児童の活動の様子や、行事、屋外活動を通して、児童とより多くかかわれるよう夏休み期間の受入をしました。
	2	身体、知的、発達障がい等、色々な児童と関わり様、担当に当て多くの経験を出来るようにした。
	3	特にありませんが、事前オリエンテーションで施設側の要望や実習の心構えを話すようにしています。
	4	室内活動だけでなく、外出する機会を作って、あきのこないプログラムを提供。そのなかで、学生さんの担当（司会やゲーム進行等）を作り、子ども達を支援する機会を作っています。
	5	長期夏休みに来て下さることが多く、とても良かった。忙しい時期ですが、来年も是非長期休みに来てほしいと思います。
	6	長期休み中を受け入れをすることで、普段より沢山子ども達と関われる。外出、社会見学、運動療育、言語訓練、クッキング。
	7	夏休みや祝日等一日療育が必要な時は、外出等の活動や、他教室との合同で外出等、室内だけでの様子だけでは見えない部分も体験を通し感じられるようなプログラムを行っている。
障がい	1	栄養士、言語聴覚士の指導のもと利用者が食べられている食事を実際に食べてもらっている。
	2	実際に現場にて利用者様と触れ合う機会を持ち、介護体験を従事した授業の一環にしています。
	3	実習期間の最終日に利用者に合ったレクレーションを計画し実行してもらう。 体験中のプログラムは利用者とのコミュニケーションがとれる内容を取り入れている（作業・余暇活動等）。
	4	法人内で入所・通所・就労とさまざまな事業を展開しているので、出来るだけ多くの事業体験が可能

種別	No.	4,施設で行う体験プログラムで工夫している点
障 が い	5	基本的なプログラムはありますが、急な病院受診等で内容が変わることがあるので日課はその日その日でホワイトボードに記入しています。
	6	1か所だけでなくいくつかのサービスで実習してもらい、幅広く障害者福祉や当事者の生活の様子を理解してもらえるようにしています。
	7	那覇学園には大きく分けて3つの班があります。各班での作業内容や利用者さんの特性も変わってくるので、すべての班を体験できるようプログラムを作成しています。
	8	入所、通所、児童とあらゆる利用者の方々との関わりがもてるようにしています。 また、体験終了30分前には必ず反省会を設け、その日に疑問に感じたことを確認しています。
	9	良かった点にも記載しましたが、障害者福祉展に作品を出展を出展希望されている利用者さんに、初日の自己紹介の段階から、学生・利用者さんに話をし、5日間、空いている時間は、作品の創作活動を行ってもらいました。職員が常に好き添えないため、両者ともお互いの呼吸や考えをそろえようと、コミュニケーションを密に取られているうちに信頼関係ができ、作品が出来上がった時の達成感や充実感を共有出来ているのは微笑ましいシーンでした。
	10	介護職と関わる看護師や理学療法士の職員にも、他職種との連携という部分で説明する時間を作っています
	11	当事業所は4か所のサービスエリアがあるため、可能な限り4か所に割り振って体験の幅をひろげて実習していません
	12	生産活動や創作活動等の日々の日課を通してできるだけ多くの利用者とのコミュニケーションをとるよう心掛けてもらったり、車いすの操作や移乗の手伝い、食事介助を体験してもらおうようにしています。
	13	体験受け入れの職員は固定しているが、より多くの視点を提供できるよう日々の担当職員は変更するようにしている。また、受け入れ担当の職員により、毎日の終了前には面談を持ち、困っていることや疑問等は解消できるように努めている。
	14	利用者の皆さんと関わって作業に取り組めるようにしている。
	15	当方の法人内に「放課後児童デイサービス事業」もあるため一週間の中で一日は、そちらも体験してもらっています。体験者の目標(教員)に近いであろうと考えからです。
	16	就労移行プログラムの座学(1時間)を任せている
	17	知的障がいをもつ方々とのコミュニケーションの困難さをより体験できるよう、関わる利用者グループを設定している。
	18	介護の体験だけでなく、利用者の暮らしや仕事、社会とのつながりを感じられるように、入所系のサービスから通所系のサービスを利用する1日の流れをみせるようにしました。
	19	利用者の方と接する機会を多くもってもらおうようにしています。
	20	障がい児・者の方たちが通う施設であることを利点として、小1から51歳まで色んな人と関わることで、また地域の中であるがままに普通に暮らしていけることを伝える工夫をしています。

種別	No.	5,事務局への意見・要望、手引きに掲載して欲しい内容等
老人福祉	1	今後も実習生が学びを深められるよう、対応をよろしくお願いいたします
	2	体験後の学生の感想（良くも悪くも）が聞ける・見れるような取り組みがあれば、、、受入施設もフィードバックも求めていると思います。
	3	報告、連絡、相談、しっかりと出来ていると思います。特に必要はありません。
障がい児童	1	ここで実習したことで、どう勉強になったのか、それが生かされたのか、その後も知りたいし、応援したい。
	2	アンケートに載せている課題となる点が学生まで知らされていなくて現場にきている。調整等ありがとうございます。
	3	忙しいなか色々ありがとうございます。
障がい	1	すみません、この報告書の返信用封筒もあれば助かります。
	2	実際に、介護等体験を通じて接する介護サービスが必要な利用者の皆さんが県内ではどれくらいの人数がいて、様々な事業所(入所施設やデイサービス、訪問介護など)を、どの程度利用されているのか、その概要のわかる数値やグラフ等もあれば、関わる皆さんを社会全体で支えるイメージもわかりやすいのかなと思いました。

